



## ヨハネによる福音書 6章1～15節

### 「パンと魚の奇跡」 「5,000人の給食」

犬養道子

いぬかい みちこ

1921年～

カトリックの信徒

犬養毅元首相の孫娘

世界の難民救済等に尽力

司祭はつづけた。ベルフという言葉を知っているか。「招かれた人、使命を生きる人という意味の言葉。」はその人です。苦痛の限りを身に受けて、それを超え、それから出て行き、与えられた心と知と才を使いに使って、周囲に光をばらまく人」。光をばらまく手段が、あの小冊子であったのだ。

涙をこぼしながら、ふしぎにも私は悲しまなかった。ただ、感謝をした。讚美をした。人間はここまで美しくなれるのだ、と。自分が病に倒れたことをも感謝した。倒れなかったら、「めぐり会う」ことは出来なかったから。

ディートリッヒ・ボンヘッ  
ファー

1906～45年

ドイツ・ルター派の牧師、  
神学者

第2次世界大戦末期、ヒトラー  
のもとで殉教

私たちは互いのパンを共にするなら、それがごくわずかなものであっても 満ち足りる。誰かが自分のパンを自分のためだけに取っておこうとすると、そのときに初めて 飢えが始まるのである。これは、神の不思議な掟である。



ジョン・ヘンリー・  
ニューマン

1801～90年

イギリス・英国国教会の  
司祭、神学者

後に、カトリックに転向

「キリストの香り」

いずこに行こうとも

あなたの香りを放つことができますように。

・・・「わたし」という人間そのものによって

あなたを伝えることができますように。

わたしの行ないがそれをなし

わたしの行ないが起こす共感がそれをなし

わたしの心に満ち溢れる

あなたへの愛がそれをなしえますように。